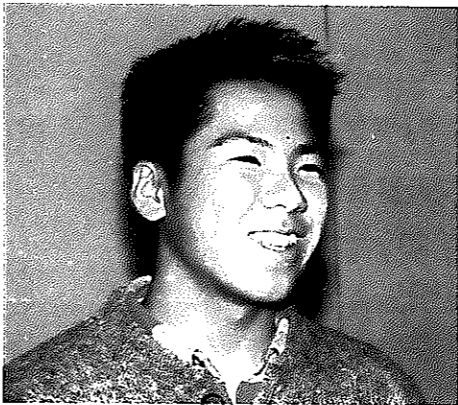


# とにかく一言でも 話し掛けてみて

●白根国際交流協会  
家族会員  
遠藤 肇さん(中大郷)

北中三年生の遠藤肇さんの家では毎年数回、東南アジアを中心に、世界各国からの短期間のホームステイを受け入れていきます。小さいころ、外国人が家に来たときには最初の何日間かはお互いに言葉が通じず、親を介してコミュニケーションしていたという遠藤さん。しかし「一緒に生活して何日かたつと、言葉は分かるようになってきた。少しでも言葉が通じるようになってきた。」



▶「相手の笑顔が見られるだけでもいいのでは」と話す遠藤さん

相手のことも聞きたくなくなって自分から話し掛けるようになったと言います。そんな遠藤さんでも、最初は肌の色の違いに抵抗がありました。でも「接していくうちに同じ人間なんだという気持ちが強くなっていき、抵抗はなくなりました。」「言葉が通じなくても初めて会った日本人と同じと思えばいいのでは。意識なんてしないで、無理して話そうなんて考えないで。とにかく一言話して、相手の笑顔が見られるだけでも相手の言葉が聞けるだけでもいいと思います」としっかりした口調で話す遠藤さん。「ホームステイでは遠慮し過ぎないで、相手にしてほしいことを伝えることが大事だと思います。何も言わないと相手も生活しにくいでしょうから、家族の一員として接するといいですね」と同じ人間として接することの大切さを訴えます。

「将来は社会福祉関係の仕事に就きたいです。また、いろんな国に行ってみて、その国の習慣や生活の仕方が分かればと思う。できるだけたくさん自分の国について勉強したい。社会福祉制度の充実したヨーロッパも見てみたいですし」と夢いっぱい語ってくれました。

# 実感、日本との違い

## ■市海外派遣研修参加者報告会

十一月十三日、白根市海外派遣研修参加者報告会がカルチャーセンターで行われました。

同研修は、市が豊かな国際感覚を身に着けたまちづくりの担い手を育成しようと今年度初めて実施したもので、九人の市民が参加し、農業、福祉、教育、環境といった研修テーマを決めて十月二十二日から一週間の日程でドイツとオーストリアへ出発、十月二十九日に帰国しました。

一行は、ドイツで農業やごみ処理、廃棄施設、学校を、ウィーンで



は老人福祉施設を視察。報告会では、テーマ別に参加者全員が発表を行いました。

「ドイツの農業は生産性を高めるためだけでなく、景観づくりや環境保護のためにも行われている。バイエルン地方で、そういった光景を目の当たりにしてうらやましく感じた」、「スーパーでの買い物でも包装がとても簡潔。ごみの量を抑えようという姿勢が印象的だった。埋立地でもそれを丘にしてその上に公園を造るなど景観を大切にしている国だと思った」、「道路と歩道の境などにさりげなく段差がなかったり、まちの造り方一つ一つがお年寄りや子供、障害者を持つ人でも暮らしやすいようになっていた」、「ドイツでは、日本でいう小学校五年生から大学進学のための学校へ通うか職人になるための学校へ通うか将来を決めるようになっていく」と肌で感じた日本との違いを話しました。

参加者の中には帰国後、白根国際交流協会に入会する人も。この研修の成果を生かして、市内の国際交流を盛り上げてくれることが期待されます。

## 座◆談◆会

# 心が通うためには 何が大切?

## 市内の外国人と日本人が語る

言葉が違っても文化が違っても必ず思いは伝わるはず。だって私たちは地球人なんだから。市内に住む外国人と日本人の方々から、どうすれば気持ちが伝わるのか、心が通い合うためには何が大切なのかを語っていただきました。

## 文化は違っても人間としては まったく変わらない(ジエームス)

外国の人から見ると、日本あるいは白根市に、どんな印象を持ったか聞かせてください。

マ:白根には風合戦のとき初めて来ました。皆さん親切で楽しかったです。アメリカにいたときは日本をあまり知らなかったんですが、来てみて好きになりました。東京では人や車が混んでいてびっくりしました。

ダ:白根は広くて緑が多い。住んでいる人たちが親切で温かい感じがします。日本は忙しいという感じがします。ニュージーランドはもつとのびのびしています。白根の人はとても親切です。

母国の人と日本人と、違いはありますか。

ジ:違ったところはありません。むしろ時間がたつほど似ている感じがしてきました。文化は違うはずなんですけど、来てみたら人間としてはまったく変わりません。

マ:そう違いはないと思います。確かに文化は違いますが、それは全然問題ではありません。ただ違うだけです。日本は回りの人の気持ちを大事にします。すべてを言葉にしなくても理解してくれるのでとても楽です。例えば食事中に、私が何も言わなくて

も塩を取ってくれます。これはとても感動的で、好きな点です。アメリカでは何でも言葉にしなければ伝わりません。そして「イエス」、「ノー」をはっきりさせなければなりません。

ここに居る日本人は、ホームステイの受け入れ経験があるようですが、外国の人と接してみてもいいか。

石:最初は戸惑いましたね。何をどうしていいか分からなくて。言葉も通じないし。でもだんだん気を使わなくなってきた。食事でもみそ汁やたくあんを出したりして。そうすると外国の人にも日本の文化を分かってもらえます。最初は敬遠していたおじいちゃん、おばあちゃんも徐々に話し掛け始めて、最後には「みんな同じだね」という話になりました。

### ●参加者

- 渡辺紀久子さん(みの口)
- 石田 美幸さん(上塩俵)
- 坪川 藤夫さん(庄瀬5)
- フレッド・ダービンさん(高校前道在住)
- スコット・マイヤーさん(アメリカ在住)
- ベンソン・ジエームスさん(ニュージーランド)

